

日本都市社会学会ニュース

NO. 96 (2013.11.30)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学文学部 二階堂裕子研究室内

Tel：086-252-3329/Fax：086-252-5145

e-mail：usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

URL：http://urbansocio.sakura.ne.jp/

(振替口座：00140-4-703976)

※事務局が移転しました。

第31回大会の報告

笹島 秀晃 (大阪市立大学)

日本都市社会学会第31回大会は、9月14日・15日の2日間、熊本大学黒髪北キャンパスにて開催された。参加者は74名(内非会員4名)であった。1日目に自由報告部会が2部会、テーマ部会(タイトル:「都市政治と社会運動」)が1部会、2日目には自由報告部会とテーマ報告部会が1部会ずつ、そして最後にシンポジウム(タイトル:「都市のアイデアとその展開」)が行われた。

1日目に行われたテーマ部会では、大阪や名古屋で近年登場したポピュリズム市長や東日本大震災以後の反原発運動といった現代日本の政治状況を受けて、都市政治と社会運動の関わりについて議論された。3人の報告者のトピックは、ポピュリズム首長の支持構造に関する計量的研究、東京圏における市民団体事業所の地理的分布の変遷から見える現代日本のマクロな社会変化、福山市・瀬港保存問題における地域社会構造の分析であった。討論者が「中間集団」という観点からの確にコメントしておられたが、一見バラバラに思えた3報告の根底には、現代日本における市民社会の揺らぎという共通の論点があることに気づき、とても勉強になった。

2日目のシンポジウムでは、「都市づくりの理念(都市のアイデア)」を先行させて行われる都市づくりの可能性と問題点が、3つの事例報告を通して議論された。各報告者は、創造都市ヴィジョンを展開し一定の成功をおさめてきた金沢市、平和都市の理念を追求してきた広島市、地方の中規模都市として課題を有しながらも新しい都市のあり方を追求する熊本市について、それぞれ発表した。登壇者の二人が行政経験者ということもあり、特に質疑応答において発言された、ご自身の体験を踏まえたエピソードなどは特に興味深く伺った。しかし、そうした個々の事実が、「アイデア」を先行させた「都市づくりの可能性と問題」に、いかなる知見をもたらすかについては十分な議論がなされなかった。時間の制限もあったので致し方ないことではあるが、この点は今後の課題であろう。

2日間の大会では、様々な研究に触れ、有意義な時間を過ごすことができた。大会での充実した議論ができるようご尽力いただいた学会事務局、開催校の先生や学生の方々に感謝申し上げます。

会長再任にあたって

谷 富夫 (甲南大学)

この度、9月の総会で会長に再任されましたことをご報告申し上げます。これまでの2年間は執行部をあげて学会財政の再建に腐心して参りましたが、どうやらトンネルの先に光明が見えてきたところです。これもひとえに会員の皆さまのご理解とご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

まだまだ潤沢とは申せませんが、なんとか財政の目処が立ったところで、今期は研究活動によりいっそうの進展がみられるよう、微力ながら努めたい所存です。さいわい企画委員長に横田尚俊理事、編集委員長に稲月正理事というベテラン会員が就任されて、それぞれに強力な布陣を敷いて下さいました。これに国際交流委員会と震災関係特別委員会が有機的に連携しつつ活動が展開されますので、どうぞご期待下さい。

私も会長3年目ということで、ややもすれば緊張の糸がゆるみがちになることを自戒しなくてはなりません。そのため、学会の事情に詳しい鯉坂学、渡戸一郎、稲月正の3会員に常任理事になっていただき、何事も4人で相談しながら進めて参ります。学会執行部の役割は、会員の皆さまの自由で活発な研究活動の環境整備にあることを肝に銘じつつ、初心にかえってはたらかせていただきますので、引き続きよろしくご願ひ申し上げます。

総会の記録

総会は、大会1日目の9月14日(水)、下記の次第にそって行われました。

1. 開会の辞(玉野和志 常任理事)
2. 会長挨拶(谷富夫 会長)
3. 開催校挨拶(徳野貞雄 会員)
4. 座長推挙(石原多賀子会員を選出)

5. 諸報告

(1)2012～2013 年度理事会報告

山本かほり事務局担当理事より、2012～13年度の理事会に関する報告がありました。

(2) 2012～2013 年度企画委員会報告

浅川達人企画委員会委員長より、2012～2013年度の企画委員会活動についての報告がありました。

(3) 2012～2013 年度編集委員会報告

江上渉編集委員会委員長より、年報31号の編集状況、バックナンバーのアップロード作業状況、年報32号の投稿募集についての報告がありました。

(4)国際交流委員会報告

稲月正国際交流委員会委員長より、韓国地域社会学会との交流、世界社会学会議2014横浜大会についての報告がありました。

(5)新入会員紹介

山本かほり事務局担当理事より、新入会員10名の紹介があり、全員拍手をもって承認されました。

(6)その他

山本かほり事務局担当理事より、大会1日目に74名(内非会員4名)の参加があったことが報告されました。

6. 第8回日本都市社会学会賞(磯村記念賞) 選考委員会報告および授与式

松本康選考委員長より選考過程および結果の報告があり、室井研二『都市化と災害—とある集中豪雨災害の社会的モノグラフ—』(大学教育出版、2011年)に同賞が授与されました。なお、受賞者には会長より賞状と記念品が授与されました。

7. 議事

(1)名簿の作成について

谷富夫会長より、日本都市社会学会会員名簿作成の提案が行われた後、意見交換が行われました。これらを受けて、名簿の項目は、氏名、所属、所属先住所、専門領域、所属先電話番号、メールアドレス、自宅、自宅住所とし、このうち氏名、所属、所属先住所は必須項目とすることが提案され、全員拍手をもって承認されました。

(2)学会ホームページ作成の外注について

山本かほり事務局担当理事より、これまでの学会 HP の管理・運営の経緯と問題点が報告された上で、HP 充実に向けて業者に外注することが提案され、全員拍手をもって承認されました。

(3)会計年度の変更について

山本かほり事務局担当理事より、現行の4月1日～3月31日から、大会開催の実態に合わせて8月1日～7月31日とすることが提案され、全員拍手をもって承認されました。

(4)2012年度決算および監査報告

山本かほり事務局理事より、2012年度決算についての報告、次いで武田尚子監事から監査報告があり、全員拍手をもって承認されました。

(5)2013年度予算承認の件

引き続き山本理事から2013年度予算についての説明があり、承認されました。

(6)役員選出の件

1) 選挙管理委員の推挙

谷富夫会長より、杉本久未子会員、高野和良会員、高畑幸会員、三田泰雅会員の4名を選挙管理委員に推挙するとともに、高野会員に選挙管理委員長を委嘱することが提案され、承認されました。

2) 会長選挙

役員選出規定第1条に基づき投票が行われ、会長が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

谷富夫 41 票 (次点: 玉野和志 6 票)

3) 理事選挙

役員選出規定第3条および第5条に基づき投票が行われ、全国区4名、地方区4名の新理事が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

全国区 (4名)

山本かほり 19 票、稲月正 18 票、高木恒一 17 票、浦野正樹 15 票 (次点: 江上渉 15 票) ※

地方区 (各地区1名)

北海道・東北地区 内田龍史 17 票 (次点: 高木竜輔 15 票)

関東地区 渡戸一郎 4 票 (次点: 武田尚子 4 票) ※

中部・関西地区 鯨坂学 15 票 (次点: 田中重好 7 票)

中国・四国・九州地区 横田尚俊 13 票 (次点: 二階堂裕子 8 票)

※年齢順位による

4)監事選挙 (2名)

役員選出規定第3条に基づき投票が行われ、新監事が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

武田尚子 8 票、江上渉 7 票 (次点: 大谷信介 4 票)

(7) 新事務局について

谷富夫会長より、事務局を愛知県立大学山本かほり研究室からノートルダム清心女子大学二階堂裕子研究室へ交替することが提案され、承認されました。

(8)次回大会の件

谷富夫会長より、2014年度の大会(第32回大会)を専修大学で開催する旨の報告があり、承認されました。また、大会開催校を代表して専修大学の広田康生会員より挨拶がありました。

8. 閉会の辞 (山本かほり 事務局担当理事)

2012年度決算報告および2013年度予算

2012年度決算報告（2012年4月1日～2013年3月31日）

収 入				支 出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	22,000	11名分	消耗品費	40,000	0	
学会費	1,150,000	1,757,000	一般258名、学生29名、終身3名	通信費	200,000	116,595	
広告収入	50,000	20,000	11年度分	ニュース印刷費	100,000	89,827	
雑収入	20,000	195,979	印税・利息・複写権収入等	年報印刷費	500,000	359,520	第30号450部
年報販売	150,000	93,300		大会開催費	150,000	150,000	第30回大会(立教大学)
				役員・委員会費	350,000	104,388	役員・委員旅費補助含む
				事務局費	300,000	62,822	事務用品、アルバイト代含む
				学会賞費	15,000	4,600	
				企画委員会費	130,000	60,198	
				編集委員会事務局費	50,000	22,630	
				国際交流費	100,000	99,990	
				震災関係特別委員会	100,000	0	
繰越金	1,241,770	1,197,160		社会学系コンソーシアム	10,000	10,000	
				予備費	618,040	0	
計	2,641,770	3,285,439			2,663,040	1,080,570	
				次年度繰越金	2,204,869		

2013年度予算案（2013年4月1日～2014年7月31日）

収 入			支 出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	40,000	文具、封筒等
学会費	1,705,000	一般200名、学生20名	通信費	200,000	
広告収入	50,000	12年度分	ニュース印刷費	150,000	350部×3回、400部×1回
雑収入	20,000	利息、複写権収入等	年報印刷費	500,000	第31号(2013年号)450部
年報販売	100,000		大会開催費	200,000	第31回大会 第32回大会
編集委員会残	27,370	12年度分残り	役員・委員会費	350,000	役員・委員の旅費補助を含む
			事務局費	400,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	20	
			企画委員会費	160,000	非会員旅費を含む
			編集委員会事務局費	50,000	編集関係通信費、事務局員手当を含む
			国際交流費	100,000	
			震災関係特別委員会	100,000	
			社会学系コンソーシアム会費	10,000	
			名簿作成費	100,000	
			予備費	1,777,219	
繰越金	2,204,869				
計	4,137,239			4,137,239	

2013年度臨時総会の記録

9月15日（日）、新理事会終了後の午後1時から臨時総会が開催されました。谷富夫会長より以下の報告があり、承認されました。

- 役員選出規定第6条に基づき、理事のうちから鯉坂学、稲月正、渡戸一郎を常任理事として指名した。
- 理事のうち、各種委員会の委員長、副委員長、担当理事の分担は以下のとおり。

〔企画委員会〕 委員長：横田尚俊理事、副委員長：内田龍史理事、担当理事：浦野正樹理事

〔編集委員会〕 委員長：稲月正理事、副委員長：鯉坂学理事、担当理事：高木恒一理事

〔国際交流委員会〕 委員長：山本かほり理事、担当理事：渡戸一郎理事

〔震災関係特別委員会〕 委員長：内田龍史理事、担当理事：浦野正樹理事

[学会賞選考委員会] 担当理事：渡戸一郎理事

[社会学系コンソーシアム] 担当理事：浦野正樹理事・高木恒一理事

[事務局] 担当理事：二階堂裕子理事、事務局長：妻木進吾

3. 各委員会担当理事を除く各委員会委員および日本都市社会学会若手奨励賞推薦委員については人選中であり、総計でかなりの数にのぼるので、会員各位のご協力を賜りたい。

第8回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品の紹介と選考理由

2013年度日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会は、2月24日（日）及び7月28日（日）の2回にわたり開催され、審査の結果、次の作品を第8回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品とすることを決定した。

1. 受賞作品

室井研二『都市化と災害—とある集中豪雨災害の社会的モノグラフ—』大学教育出版 2011年12月

2. 受賞理由

第8回日本都市社会学会賞の審査対象となった作品は、日本都市社会学会会員が執筆して2011年1月から2012年12月末日までに刊行された43冊であった。この冊数は、第7回の選考対象候補作品数よりも19冊多くなっている。審査は2段階に分けて行われ、第1回審査で43冊の中から6冊に絞り、第2回選考委員会において受賞作を決定した。

受賞作となった室井研二著『都市化と災害—とある集中豪雨災害の社会的モノグラフ—』は、社会学における災害に関する先行研究の検討を踏まえて、災害研究への都市社会的アプローチの流れを継承し、さらに発展させることを目的として書かれたものである。具体的には、2003年7月に福岡県で発生した集中豪雨により甚大な被害を受けた太宰府市の郊外住宅地と飯塚市の中心市街地を取り上げ、これら二つの地域の水害の特質と住民の対応を都市化状況の違いから考察し、社会的なモノグラフとして綴ったものである。本書の最大の特徴は、福岡都市圏郊外の混住地域と地方中心都市の中心市街地における集中豪雨事例において、それぞれの被災地が辿った都市化プロセスとの関連において、災害脆弱性、災害原因、発災後の社会過程の特質を捉えた点にある。選考委員会においては、二つの地域の類型的特質が都市水害への対応の仕方にもどのように影響したかを、質問紙調査や聞き取り調査によって、詳細に記述し、比較分析した手堅い実証研究として、また都市社会学が蓄積してきた分析用具が災害研究に有益であることを実証した応用研究として高く評価された。

（日本都市社会学会賞選考委員会委員長 松本康）

国際交流委員会報告

韓国地域社会学会との交流も4年目を迎えました。来年度の大会では、韓国地域社会学会から来日して、学術交流をすることになっています。その方法はこれまで試行錯誤ですが、来年度の大会では、「日韓ジョイントセッション」のような形で、共通のテーマを設定し、日韓から発表者を出して報告し、議論するという形式を考えております。初めての試みですので、今後十分にその方法をつめないといけないと思いますが、企画委員会と連携をとりながら、実質的な日韓の学術交流を目指したいと考えています。（国際交流委員会委員長 山本かほり）

企画委員会報告

今年度より企画委員会のメンバーが大幅に入れ替わりました。留任（継続）の委員3名に対して、新任の委員が7名という割合です。委員はいずれも、これからの都市社会学を担っていく気鋭の方々です。それに、企画担当理事3名と国際交流担当理事1名が加わり、次回大会における「シンポジウム」、「テーマ部会」、それに「日韓ジョイント・セッション」（仮）の企画立案を進めていきます。

10月27日の第2回委員会において、各委員の役割分担が決定しました。今後それぞれの企画案を具体化していく予定です。詳しい検討の状況については、次回学会ニュース等にてお知らせいたします。

(企画委員会委員長 横田尚俊)

編集委員会からのお知らせ

1. 編集委員会事務局の移転について

編集委員会の体制が新しくなったことにともない、編集委員会事務局がこれまでの立教大学社会学部・江上研究室から、北九州市立大学基盤教育センター・稲月研究室に移転しました。『日本都市社会学会年報』の編集事務につきましては、基本的にこれまでの編集委員会の方針を踏襲しながら進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。新しい編集委員会事務局の連絡先は次のとおりです。

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1

北九州市立大学基盤教育センター 稲月正研究室内 日本都市社会学会編集委員会事務局

E-mail : inazuki@kitakyu-u.ac.jp

電話 : 093-964-4069 (稲月研究室直通) ファックス : 093-964-4000 (大学事務局受付)

2. 『日本都市社会学会年報』32号(2014年発行) 自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』32号(2014年発行)に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、学会ホームページまたは『年報』31号(2013年発行)に掲載された編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2013年11月30日(消印有効)までに上記の編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい(消印が確認できないためメール便は不可)。なお、すでに前編集事務局(立教大学・江上研究室)にお送りいただいた方につきましては、改めて新編集事務局(北九州市立大学・稲月研究室)にお送りいただく必要はありません(前事務局から転送されます。)25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしております。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。(編集委員会委員長 稲月正)

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

第31回大会に参加されず2013年度の年会費を納入されていない会員、および過年度の年会費の納入がすすんでいない会員の方には、学会費納入用の振り込み用紙を本ニュースに同封いたしました。お早めに納入くださいますよう、お願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、平成21年1月に全国銀行データ通信システムに接続することにより、全国の金融機関(一部を除く)と相互に振込ができるようになりました。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名 郵貯銀行

預金種類 当座

金融機関コード 9900

口座番号 0703976

店番 019

受取人名 ニホントシシャカイガツカイ

店名(カナ) 〇一九(ゼロイチキョウ店)

2. 第32回大会について

第32回大会は、専修大学で開催されます。

3. 理事会報告

(1)2013年度第1回理事会報告

2013年度第1回理事会は9月14日(土)熊本大学にて大会1日目終了後に開催され、理事の役割が審議されました。詳しくは「臨時総会の記録」の項をご参照ください。

(2)2013年度第2回理事会報告

2013年度第2回理事会は、9月15日(日)熊本大学にて開催されました。各種委員会委員長からそれぞれの委員候補が確定したことが報告されました。委員は以下のとおりです。

企画委員会：横田尚俊(委員長)、内田龍史(副委員長)、浦野正樹(担当理事)、五十嵐泰正、笹島秀晃、下村恭広、堤圭史郎、南後由和、速水聖子、原田謙、松宮朝、室井研二、文貞實

編集委員会：稲月正(委員長)、鯉坂学(副委員長)、高木恒一(担当理事)、高野和良、武田尚子、徳田剛、西田芳正、松林秀樹、三田泰雅、山口恵子

国際交流委員会：山本かほり(委員長)、渡戸一郎(担当理事)、黒田由彦、齊藤麻人、高畑幸、文貞實

震災関係特別委員会：内田龍史(委員長)、浦野正樹(担当理事)、浅川達人、高木竜輔、松菌祐子、山口恵子、山下祐介、山本薫子

事務局：二階堂裕子(担当理事)、妻木進吾(事務局長)

(3) 2013年度第3回理事会報告

2013年度第3回理事会は、10月27日(日)愛知県立大学サテライトキャンパスにて開催されました。

①学会奨励賞推薦委員の選出・委託、②学会ニュースの発行、③第32回大会・第33回大会、④ホームページ作成の外部委託、⑤ISAの現地ツアー、⑥年報バックナンバーの扱い、⑦非会員への謝金、⑧「磯村データ」の扱い、⑨監査担当者の交代について審議しました。⑨については、武田尚子会員と大谷信介会員(次点)に務めていただくことが承認されました。(事務局担当理事 二階堂裕子)

第31回大会プログラムの修正とお詫び

学会ニュース95号に掲載しました第31回大会のプログラムの自由報告タイトルに誤植がありました。報告者の方にはご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。以下、正しいタイトルを掲載いたします。

<自由報告部会Ⅲ>

報告者：中野佑一(上智大学)

(誤)「日本におけるセキュリティタウン開発の社会的背景と特質—都市社会学における『生活拡充集団』の再定位」→(正)「日本におけるセキュリティタウン開発の社会的背景と特質」

報告者：伊藤恵造(秋田大学)

(誤)「高齢化する団地コミュニティにおける社会関係の再編過程」→(正)「高齢化する団地コミュニティにおける社会関係の再編過程—都市社会学における『生活拡充集団』の再定位」

(前事務局担当理事 山本かほり)

第5回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査および推薦に関するお願い

日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。若手奨励賞は「著書の部」と「論文の部」に分け、それぞれについて選考を行います。多くのみなさんからの応募をお待ちしています。

対象：今回、対象となるのは、(1)2012年1月から2013年12月末日までに公刊された著書・論文であって、(2)公刊時点で、著者が、博士（後期）課程入学後10年以内であった、日本都市社会学会会員の研究業績です。

文献調査：上記の基準を満たす著書・論文を発表した若手会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2014年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦：上記の基準を満たす著書・論文のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績」をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。なお、他薦であって、上記の対象基準(2)を満たしているかどうか確認できない場合には、その旨の注記をお願いいたします。

同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項を記入の上、2014年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。
宛先/問い合わせ先：学会事務局の住所は、本ニュース1ページ目にあります。予算の関係上、送料は自己負担でお願いいたします。また、この件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mailでお願いします。

選考対象のリスト作成は、若手会員自身による文献調査報告や自薦がまずは基本となります。該当される方は、ぜひとも積極的に対応下さい。なお、若手奨励賞用の調査用紙・自薦他薦用紙は学会WEBサイトからダウンロードできますので、ご活用ください。
(日本都市社会学会賞選考委員会委員長 松本康)

学会名簿の作成

2ページの総会記録にもありますように、『会員名簿』を作成することになりました。7月に一度会員情報の問い合わせをさせていただいておりますが、総会では、『会員名簿』に会員の「専門領域」を掲載することが新たに決まりました。また、時期的にも、来年4月の人事異動等にあわせた方が良いとの判断から、あらためて4月（予定）にハガキ等で会員情報をお伺いいたします。お手数をおかけしてたいへん恐縮ですが、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。
(事務局担当理事 二階堂裕子)

会員異動

新入会員 (2013年9月13日理事会承認)

<関東地区> 高久聡司 (目白大学)

学会事務局より

- ◆第31回大会は、無事開催することができました。開催校の徳野貞雄会員をはじめ関係者のみなさんに、事務局からあつく御礼申し上げます。
- ◆第31回大会に参加された会員の皆様には「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。
- ◆第31回大会に参加されなかった会員の皆様で、2012年度までの会費納入者の皆様には『日本都市社会学会年報31号』と「学会ニュース」、「文献調査用紙」、「推薦用紙」を同封いたしました。なお、2013年度年会費振込用の「振込用紙」も同封させていただいておりますので、お振込をよろしくお願い申し上げます。
- ◆第31回大会に参加されなかった会員の皆様で、2012年度までの会費に未納分がある皆様には、「学会ニュース」、「文献調査用紙」、「推薦用紙」を同封し、『日本都市社会学会年報31号』は同封していません。未納分をお振込いただき次第、お支払いいただいた年度の翌年発行の年報をお送りさせていただきますので、同封の「振込用紙」によりお振込をよろしくお願い申し上げます。
- ◆学会事務局の移転について：2013年度から2015年度までの2年間、学会事務局がノートルダム清心女子大学二階堂裕子研究室におかれることになりました。なお、学会ニュース1ページ目に新事務局の連絡先が掲載されていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前学会事務局同様、emailもしくはファクシミリにてお願いできれば幸いです。
(事務局担当理事 二階堂裕子)